

尻子玉抜かれるぞ！

ふなっ幼 水難防止講話

紀北町立ふなっ幼稚園（塩崎千賀園長）に二十八日、「海山めだかの学校」の校長先生がやって来て、園児たちに水難防止のミニ講話を行った。

川遊びのシーズンを前に、地元船津在住でNPO法人ふなっこと企画舎理事長の田上至さん（四十九）が毎年同園に出向いて指導しており、今年で十一年目。集まった全園児二十人に、地元で伝わる民話を紹介して水難防止の約束を交わした。

はげ頭のかつらをかぶり校長先生姿で現れた田上さんは、最初に船津川の「番太淵の

川太郎」の話を紹介。次に皿を乗せたカッパの頭、とがったくちばしに取り替えて水かきのついた長い手を持ち、川太郎に扮して話をした。

「ガタロの好きな食べ物をもつ挙げてくたさい」と問いかけた。子どもたちはキュウリと魚の二つをすぐに答えたが、難問は「尻子玉」。昔話などで人間の尻の近くにあるといわれている魂の塊で、これをガタロに抜かれるとふぬけになっておぼれてしまうと伝えられている。

園児にはさすがに分

ッパはこれが一番好き。川で遊ぶ時は気を付けてください。子どもだけで川に行つてはいけません。お兄ちゃん、お姉ちゃんが石の上を渡つていても、まねをしない。君たちはまだ泳ぎも上手じゃない。川の怖さも知りません。むちやをすると尻子玉を抜かれるよ」などと話し、園児たちは怖いカッパに遭わなくてもいいように、子どもだけで泳ぎに行ったり、無理をしてお兄ちゃんやお姉ちゃんのまねをしないことを約束。田上校長は最後に、「ぎょうの話を覚えておいて、楽しく水遊びをしましょう」と念を押し、水の事故に気を付けるよう指導した。

平成24年(2012年) 6月30日 土曜日 (日刊)



ガタロに扮して注意を呼び掛ける田上さん(正面奥)